
令和 7 年度タウンミーティング

<テーマ>

○現在の町の取り組み

○旧東川駅跡再開発プロジェクト

2025年 7 月
東川町

行政懇談会（タウンミーティング）

行政懇談会（タウンミーティング）の開催について

町民と行政が一体となり連携し、活力と潤いのある町の未来を築き上げていくことの重要性を共有し、町民参加による町民主体の町民福祉向上のまちづくりの推進するため、行政懇談会（タウンミーティング）を開催いたします。

行政懇談会（タウンミーティング）は、町民と行政がお互いの立場を尊重し、共に知恵を出し合うことにより、町民が主役のまちづくりを進めていくための貴重な機会として、町民のみなさんと、町づくりをすすめる町長が、今後の町づくりのあり方について、直接対話をいたします。

<本日の流れ> 開会

- （１）自己紹介
- （２）町づくり概要説明
- （３）ご意見・ご提言
- （４）あいさつ

閉会



東川町のキーワード・ポイント

まちづくりのキーワード

写真文化首都 「写真の町」

- ・1985年「写真の町」宣言
- ・2014年「写真文化首都」宣言
- ・東川町国際写真フェスティバル
- ・写真甲子園

etc...

水が豊かな町

- ・大雪山が生み出す豊かな水資源
- ・全戸が地下水で生活
- ・上水道がないまち

etc...

大雪山・旭岳の町

- ・北海道最高峰「旭岳」
- ・2291m
- ・大雪山国立公園の一部を有する

etc...

お米の町

- ・高品質ブランド米「東川米」
- ・単一農協、JAひがしかわ
- ・ゆめぴりかコンテスト最高金賞
- ・2020年 公設民営酒造誕生

etc...

木工家具の町

- ・「旭川家具」の3割の産地
- ・2021年「椅子の日」制定
- ・建築家・隈研吾さんとの連携
- ・君の椅子プロジェクト

etc...

適疎な町

- ・25年間人口が増え続ける町
- ・「適度に疎がある」状態
- ・2022年「ゼロカーボンに取り組む適疎な町」宣言

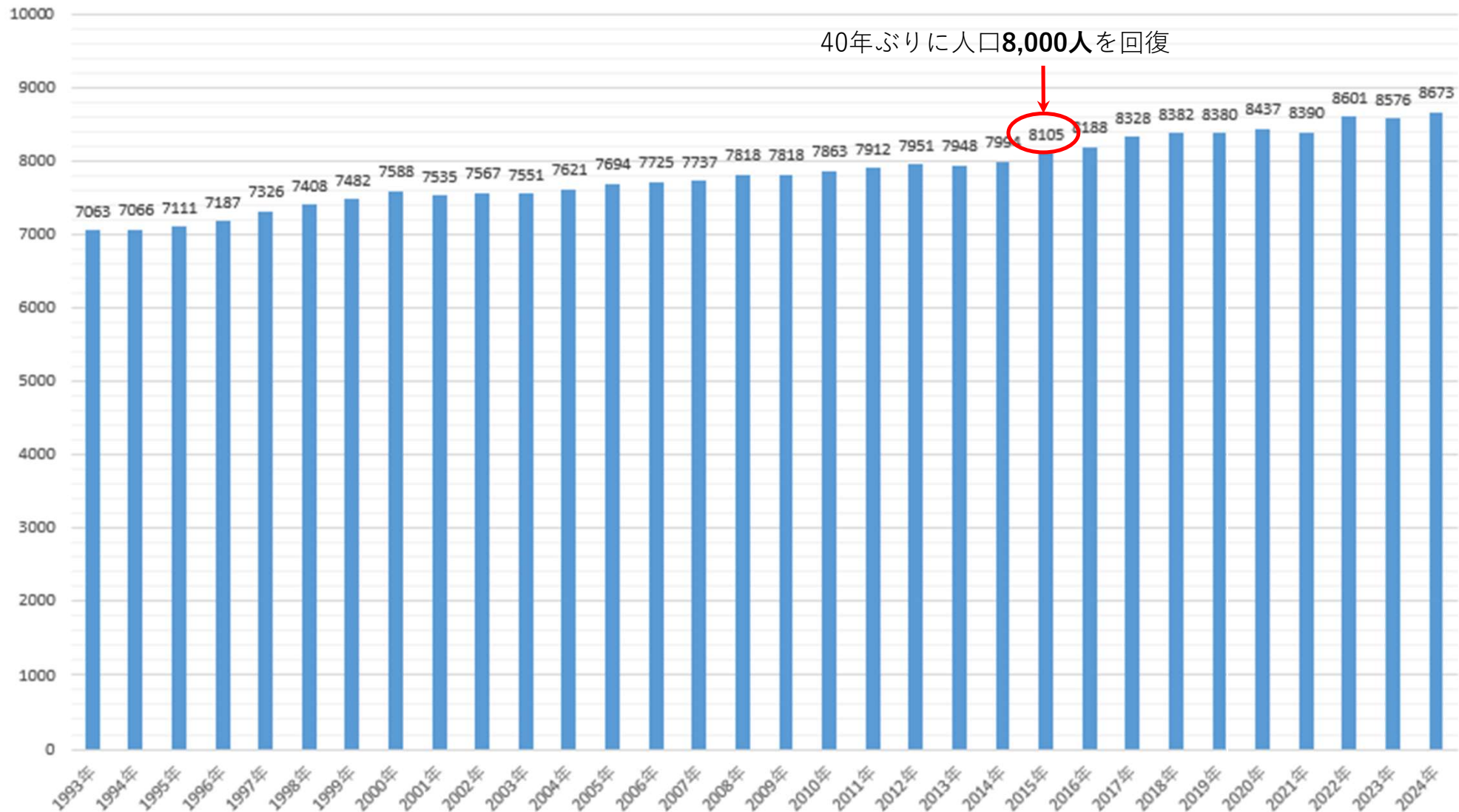
etc...



30年間で人口が約2割増加 | 定住人口の推移

30年にわたって、ゆるやかに人口が増加

2025年5月末現在 **8,716人**
(うち外国人557人※留学338人)

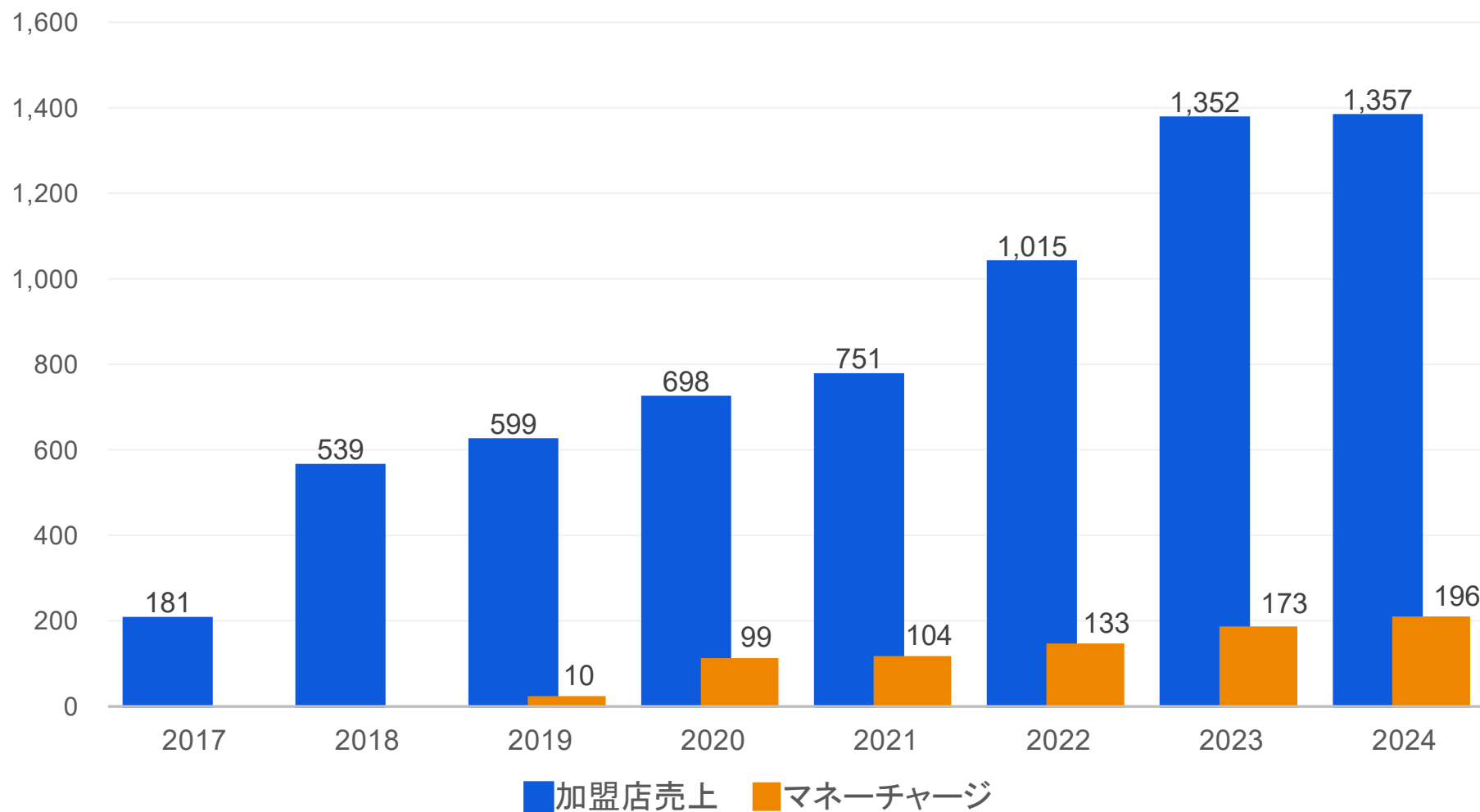




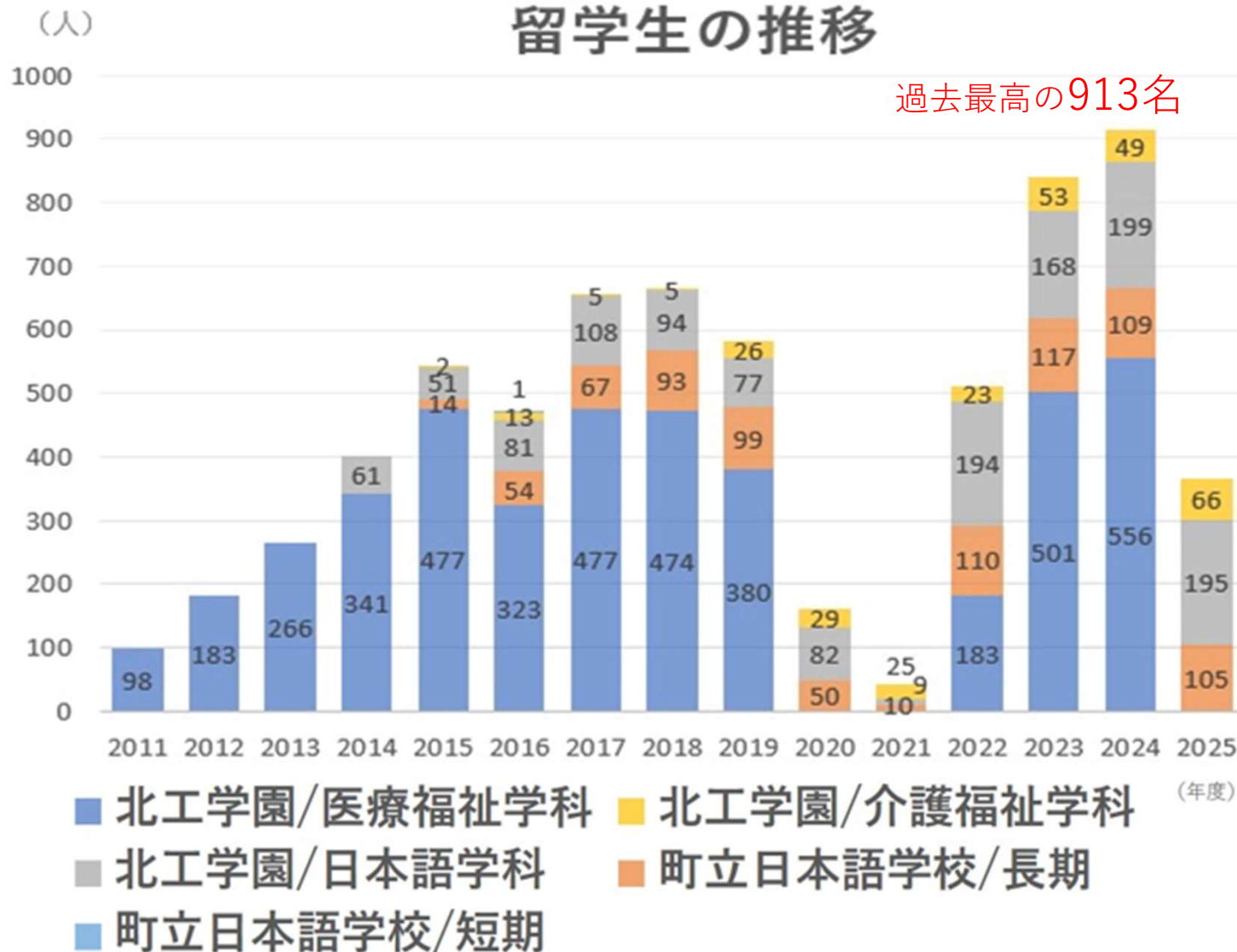
地域通貨による経済循環（H U Cによる経済効果）

H U C利用実績額

単位：百万円



東川町立東川日本語学校と東川国際文化福祉専門学校



「東川町立東川日本語学校」

設置運営者：東川町

○1年コース 120名程度

「東川国際文化福祉専門学校」

○日本語学科 (1年半、2年)

200名程度

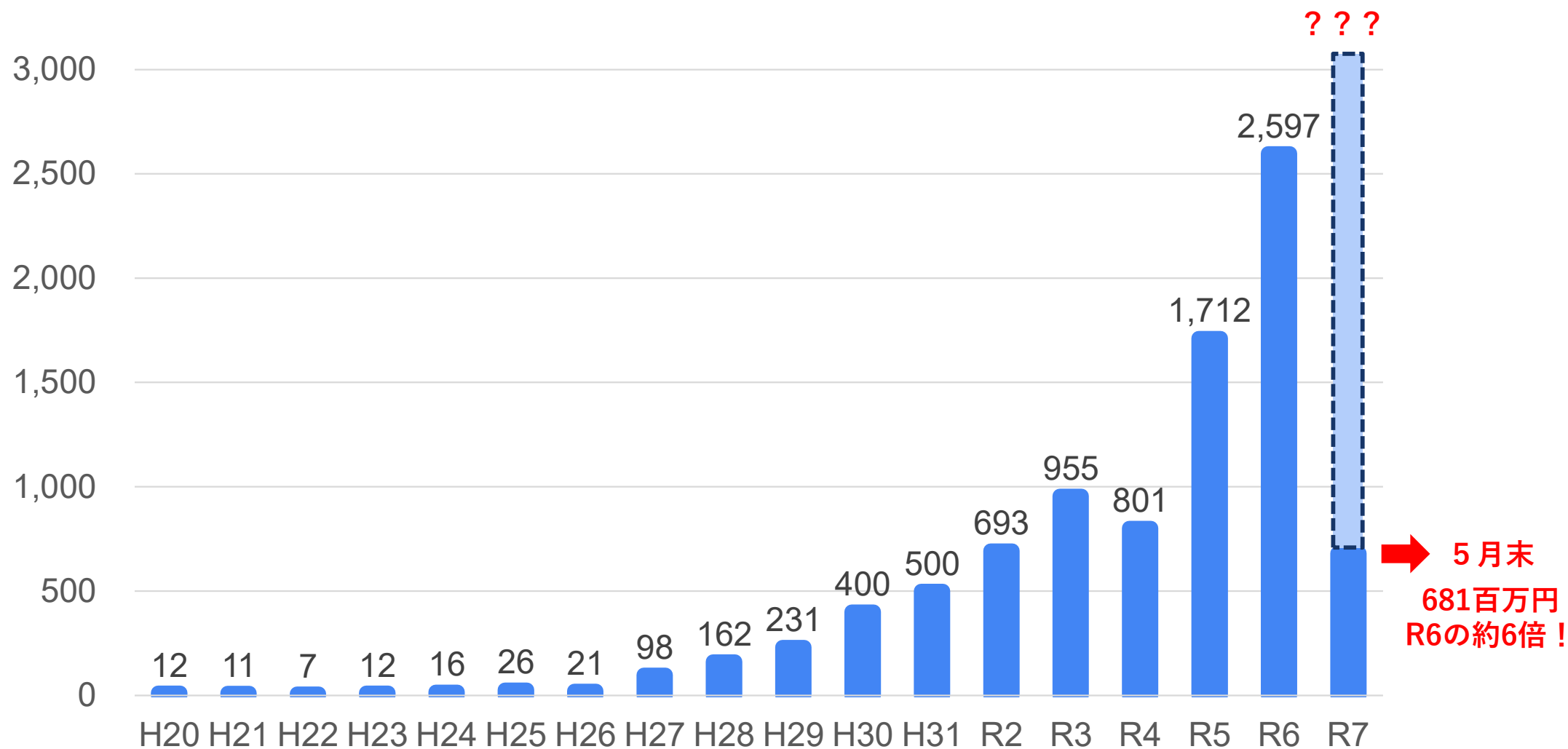
※介護福祉学科もあり



ふるさと納税 | 「写真の町」ひがしかわ株主制度

株主制度（ふるさと納税）決算額

単位：百万円



酒のまち？へ

ワイナリー、クラフトジン、クラフトビールも



三千櫻酒造（2020年～）

町が整備する公設民営方式により全国でも珍しい手法を用いて2020年に開設。明治10年創業、岐阜県中津川市の三千櫻酒造が現役酒造として東川町へ移転した。



丹丘蒸留所（2025年～）

町が整備、民間運営の公設民営方式により2024年度に建設。

香港を拠点とする丹丘蒸留所が町との連携によりジンとウイスキー蒸留所を開設。

東川町の水をスピリット造りに生かし、ジンに加え、3年後にはウイスキーも生産予定。



雪川醸造（2022年～）

地域おこし協力として夫婦で東川町へ移住。起業して町所有の歴史あるレンガ倉庫を活用したワイナリーを開設。



THBBクラフトビール（2025年秋～予定）

ホテルチェーン道内大手のトーホウリゾート（札幌）が地元人材と連携してクラフトビール醸造所を開設予定。

産業ツーリズム施設「CRAFTPIA」の開設

家具木工を見る・知る・体験する



運営事業者：ガージーカームワークス（運営開始2025年～）

町が整備する公設民営方式により2025年開設。

運営の中心は旭川家具ブランドとして旭川から拠点を移すガージーカームワークスが担い、東川クリエイティブスペースや情報発信機能を「東川木工会」との連携により、新たな産業ツーリズムを展開する。

HIGASHIKAWA MOKKOKAI

東川木工会について



「クラフトピアと木工会の活動」

東川木工会は、東川町内の木工事業社 30 社が加盟し、まちの木工事業の発展を目指す団体です。事業に共通する課題や目標を気軽に持ち寄り、共に協働しながら解決・推進することや、事業者同士の繋がりの強化、技術の共有などを目的としています。

ひがしかわライスターミナル 間もなく全面稼働

令和6年6月より精米施設稼働開始

令和7年夏までに、品質管理棟、乾燥棟、機械棟、サイロ等が完成
～荷受け・乾燥・貯蔵・調製出荷までの行程が可能に～



精米施設

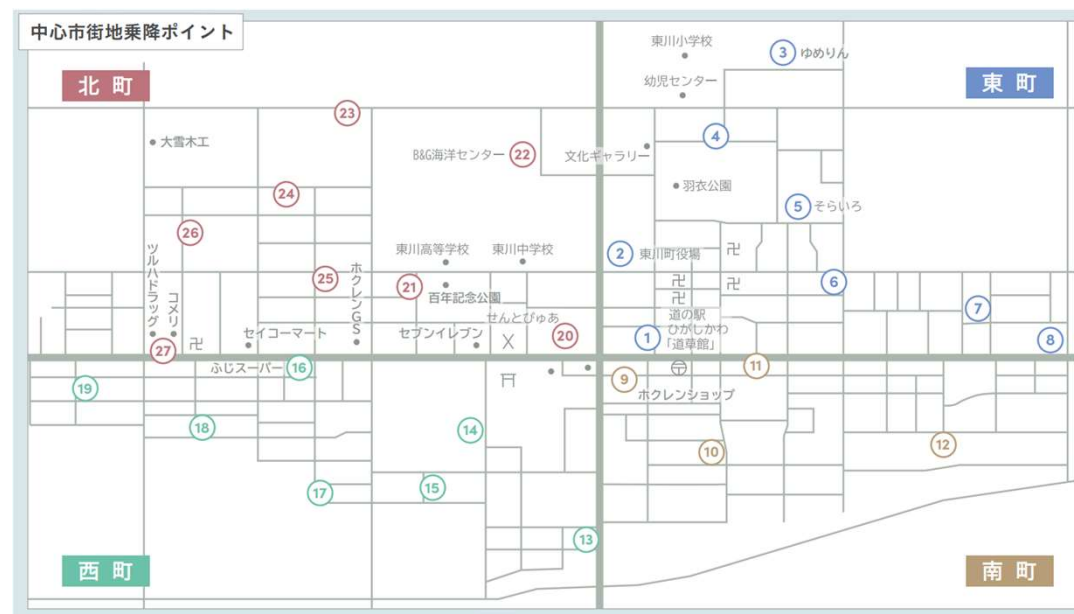
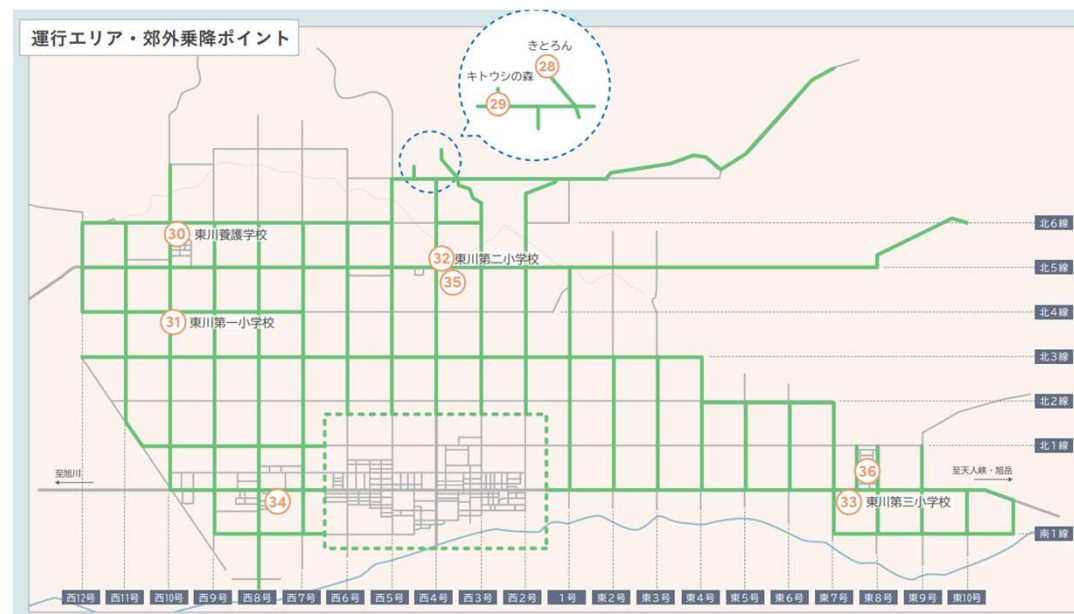


機械棟・サイロ等（工事中）

新たな交通システムの構築

予約制乗合バスによる新たな交通サービス（2025年4月開始、10月からは公共交通を一本化）

町内を郊外エリア、市街地エリアに分けて全域の9割をカバーした新たな交通システムをスタートした。10月には町営バスを含めて公共交通サービスを一本化し、利便性と運行効率の向上を図る。住宅街、小学校、役場などの公共機関、スーパーなど36か所の停留所のほか、郊外は規定路線のどこでも乗車可能。10月からは小中に加えて高校生や65歳以上の無償化を実施する。



ゆめ公園 天然芝サッカー場新設（Jリーグキャンプ誘致）



整備目的

- ①子どもたちを中心としたスポーツ環境の充実
- ②「ゆめ公園」空閑地の有効活用
- ③合宿誘致事業モデルの形成



（左からトーホウリゾート株式会社 代表取締役 唐神 昌子様、東川町長 菊地 伸、株式会社セレッソ大阪 代表取締役社長 森島 寛晃様、株式会社ハヤシコーポレーション 代表取締役CEO 林 歳彦様）

北海道東川町は、2025年3月23日（日）、株式会社セレッソ大阪（本社大阪、代表取締役社長 森島 寛晃）、同チームスポンサーでサステナブルな社会実現を目指す広告会社 株式会社ハヤシコーポレーション（本社大阪、代表取締役CEO 林 歳彦）、さらにトーホウリゾート株式会社（札幌市中央区、代表取締役 唐神 昌子）の3社と共に、「スポーツまちづくりに係る包括連携協定（東川オフィシャルパートナー協定）」を締結しました。

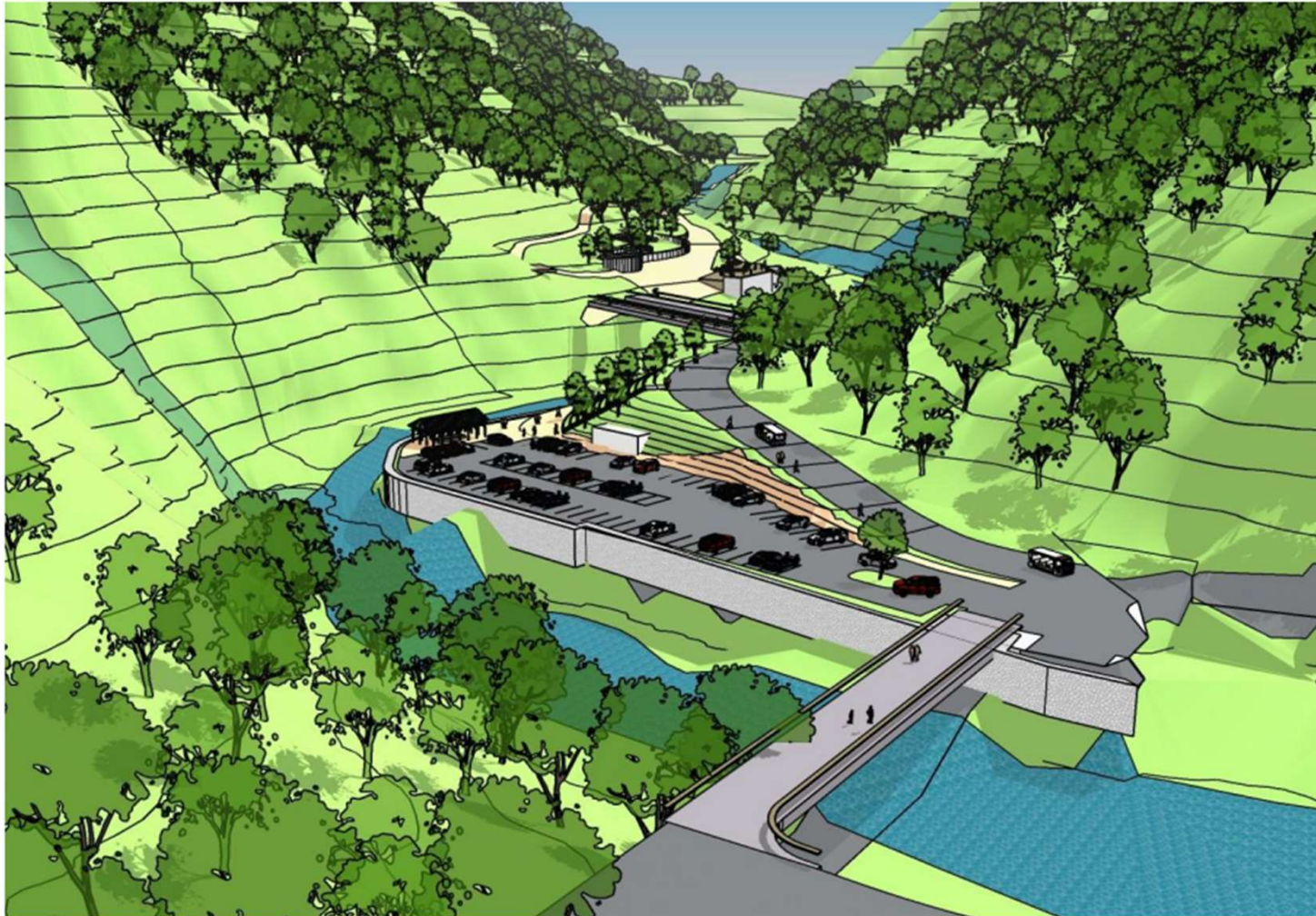
天人峡地区の再整備計画

町の誇るべき観光地「天人峡温泉」
の復活へ、羽衣の滝、柱状節理を生
かした再整備へ

再整備のイメージ



取り壊しを終えた2つの廃墟ホテル



旧東川駅跡再開発プロジェクト

1-1. 町全体の活性化イメージ

「ひがしかわ価値創造計画」を踏まえ、旧東川駅跡再開発に伴う導線、周辺エリアの利活用を右図イメージのとおり進めることで、本事業の効果を最大化する。

(施策の例)

◆街歩きストリート

通行量、安全性等を調査、検討し、石畳みや色を変えることで、「居心地が良く歩きたくなる」=ウォーカブルなまちづくりを促進する。

◆サイン、ゲートetc

木工事業者などと連携をしながら、統一感のあるデザインミュージアムのゲート、サインなどを整備する。

◆その他

住宅街の整備や構築物の整理を行う。また、町内に分散した駐車場を新規に整備することで、来街者の駐車場所の確保と街歩きの促進を併せて進める。



1-2. プロジェクトの趣旨

- 本資料は、「旧東川駅跡再開発プロジェクト」実現に向け、令和7年度以降に予定される基本構想策定に向けた準備として、プロジェクトにかかわる基本的な情報を整理したものである。

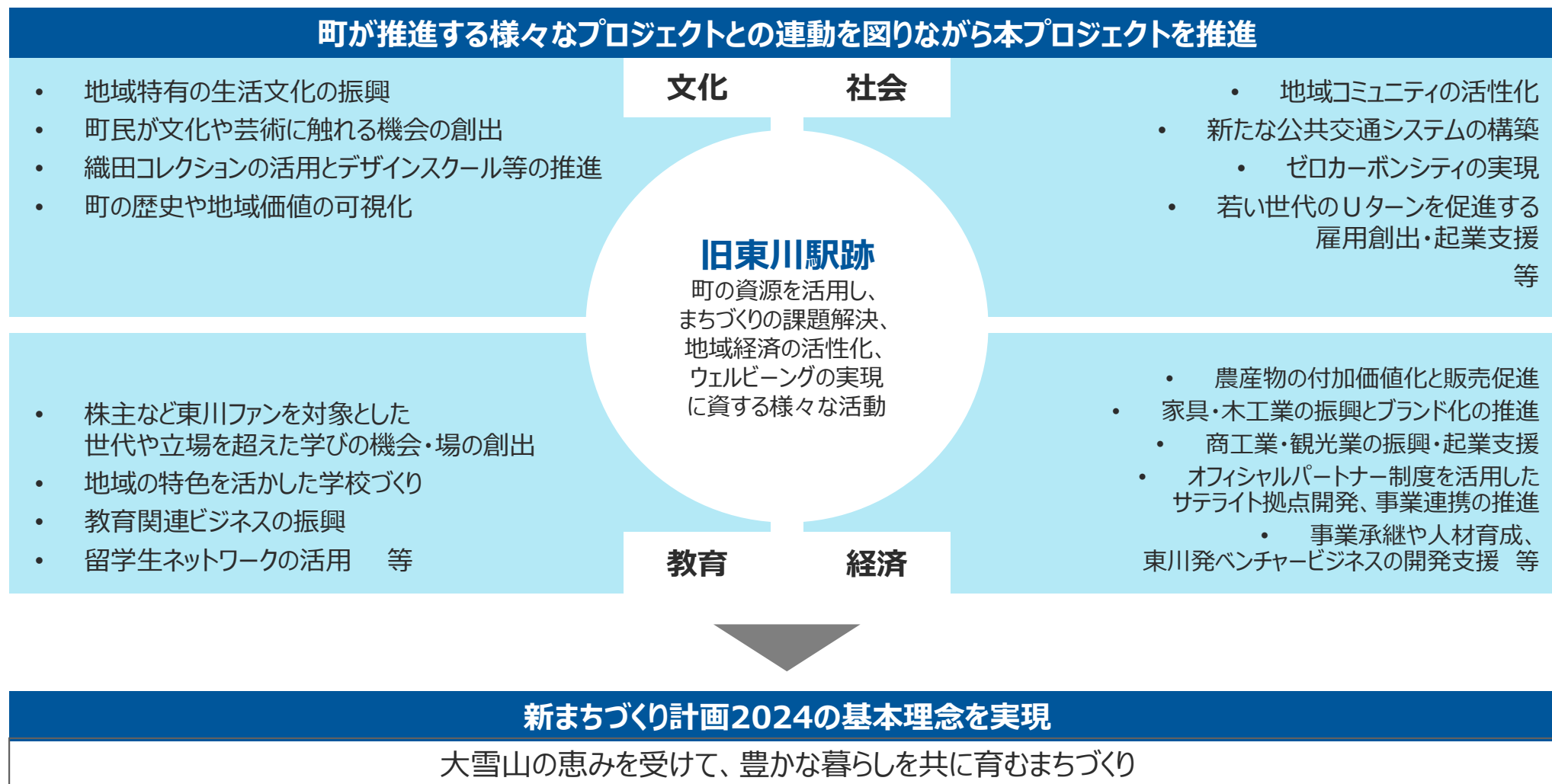
プロジェクトの趣旨

- 東川町は、大雪山の麓に開墾された田園地帯であり、厳しくも豊かである自然との共生をはかりながら文化農村※を形成してきた。1969年、木工家具産業の振興を目的に東川町企業誘致促進期成会を結成。木工団地の整備と企業誘致を進め、現在では生産額・就業人口も一番の産業となり、町民の約40%が木工家具産業に関係する「家具の町」となっている。1985年、「写真の町」宣言から芸術文化によるまちづくりが始まる。「写真文化」を糸口に国内外の様々な人や組織との交流と呼応を重ねながら、「大雪山文化」「家具デザイン文化」と影響し織りしながら独創的な地域文化が形成されている。 ※「東川村史」（昭和29年）の序文より引用
- 東川町のこれからの町づくりは、旭川を中心とする都市圏全体の人口が減少傾向にある中で、令和5年度に策定した「東川町新まちづくり計画2024」では、コミュニティ、産業、福祉、交通、地球温暖化等、様々な新たなまちづくりの課題が指摘されている。また、まちの顔である中心市街地についても、「ひがしかわ価値創造計画」において、「東川の暮らしの魅力を発信し、ひとや地域をつなぐ」役割を果たすため、必要な施策に取り組むこととしており、町の歴史において重要な役割を果たした「旧東川駅跡」とレンガ倉庫群についての利活用もその一つと位置付けられている。
- また、新まちづくり計画2024においては、地域コミュニティを「まちづくりを支える土壌」と位置づけ、対話と参加を促進するとしている。加えて、これまでも東川町は「ひがしかわ株主制度」「オフィシャルパートナー制度」等の独自の取組を通じ、町内外の様々な主体等のネットワークづくりと協働共創に積極的に取り組んできた。
- 近年、文化による町づくりを進めてきたことで、町にゆかりのある国や作家から芸術作品等の寄贈が増えている。さらに、北欧家具等から構成される「織田コレクション」の次代への継承を目的に取得するが、町の所有する文化財の町民の周知やその活用が進んでいないという課題もある。
- 上記の経緯を踏まえ、「旧東川駅跡再開発プロジェクト」では、東川町の様々な地域資源や文化財、国内外のネットワークを活用し、将来のまちづくりに向けた課題解決を図る基盤となる場所として旧東川駅跡の活用を図る。
- 本プロジェクトの実現に向け、計画内容や運営方法の検討、開設後も日常的な利用等、町民が主体的に関与できる場とすること、町の文化資源や文化財を活用することで新たな文化を創出していく場とすること、東川町が多様な主体とのかかわりの中で、まちづくりの課題解決につながる新たな発見や経済活動を生み出していく場とすることを想定する。
- 令和5年度までは本プロジェクトを「KAGUデザインミュージアム」と称していた。ただし、本プロジェクトはデザインに関する展示施設にとどまらず、まちの様々な資源を活用し、旧東川駅跡一帯を起点として幅広くまちづくりの課題の解決を目指すものであることから、本資料以降においては「旧東川駅跡再開発プロジェクト」を新たに用いることとする。

1-3. 旧東川駅跡再開発プロジェクトのねらい

- 東川町が推進する様々なプロジェクトとの連動の中で本プロジェクトを推進することにより、**新まちづくり計画2024の基本理念である「大雪山の恵みを受けて、豊かな暮らしを共に育むまちづくり」の実現**を目指すことが考えられる。

本プロジェクトのねらい



1-4. これまでの東川町の取組 | 東川町の概要

- 東川町は、豊かな自然と人との共生する暮らしと生業である「大雪山文化」、家具クラフト産業に従事する人たちの創作活動が培ってきた「家具デザイン文化」、1985年から「写真の町」として芸術文化を町づくりに取り込みながら「写真文化」を新たに醸成しながら、「暮らし」「産業」「芸術」という3つの文化が織りなす独創的なまちづくりを進めてきた。

「写真の町」宣言までのあゆみ

1895年 東川町の開拓がはじまる

1897年 旭川村から分割し「東川村」となる

1927年 旭川市と東川町の間に日本で最北の路面電車の運行が開始される。

- 馬を利用しても約4時間かかった時間が、電車により40分になったことで、米、石炭、木材、日用品等を大量に運ぶことができるようになる。

1934年 大雪山が「国立公園」に指定される

1959年 町政施行により「東川町」となる

1962年 農業近代化への「構造改善事業」の指定を受ける

- 第二の開拓である土地基盤整備事業について、全道に先駆けて1963年より1975年まで実施される。

1969年 東川町企業誘致促進期成会による誘致第一号の旭川木工団地東川センターの起工式が行われる

- 米造り専門の純農村から脱皮し、年々流出を続ける人口の過疎対策として企業誘致を促進する。

1981年 キトウシ森林公園家族旅行村がオープン

1985年 「写真の町」宣言を行う

2-1. 旧東川駅跡再開発プロジェクトの基本理念

本プロジェクトにおいて実現すべきこと

以下の要素を充足する「東川の歴史・文化・人の魅力に触れ、新たな地域価値を創発する場所」として旧東川駅跡周辺を活性化

- 1 多様な人が地域で行われるさまざまな活動に参加し、相互に交流し、新たな価値を生み出す機会を創出する場であること
- 2 東川町の産業の魅力を学び、体験し、発信できる場であること
- 3 東川町の丁寧で豊かな暮らしを形づくる歴史や文化について学び、体験できる場であること
- 4 自然景観や街並みとの調和や、周辺施設との連動の中で、町の魅力をさらに高める場であること
- 5 東川町と世界を接続する、すなわち世界の人が東川について知り、東川の人が世界について知るきっかけとなる場であること

旧東川駅跡再開発プロジェクトの基本理念（イメージ）

にぎわいと文化が交わり成長するプラットフォーム

過去には様々なひとやものが行き交った旧東川駅跡を、産業や文化を中心とする東川町の丁寧で豊かな暮らしの魅力や、その源流にある歴史を学び、体験できる「プラットフォーム」として再生します。

ここでいう「プラットフォーム」は、①かつてこの場所にあった駅のホームのように、町の中と外をつなぎ、それまで知らなかった人や情報に出会うきっかけになる場所 ②そこからまちづくりの課題解決につながる様々な活動が生まれていく基盤となる場所 この2つの意味を持ちます。

本プロジェクトを通じ、旧東川駅跡を中心として以下の状態を実現します。

- 訪れる人が東川駅跡を出発点として町の様々な場所を訪れ、暮らしの魅力をより深く知る出発点となること
- 旧東川駅跡から生まれる町内外の主体の出会いや対話、交流を通じ、まちづくりの課題解決に寄与しうるような新たな発見や地域活動や経済活動が生まれること

上記により、この場所から「これからの真の豊かな社会のあり方を、共に考え、共に悩み、共に創ることを通じ、地域の課題を解決すること」「これからの新たな暮らしや地域社会のあり方を発見する」ことを目指します。

2-2.プロジェクトの実施により見込まれる変化と効果

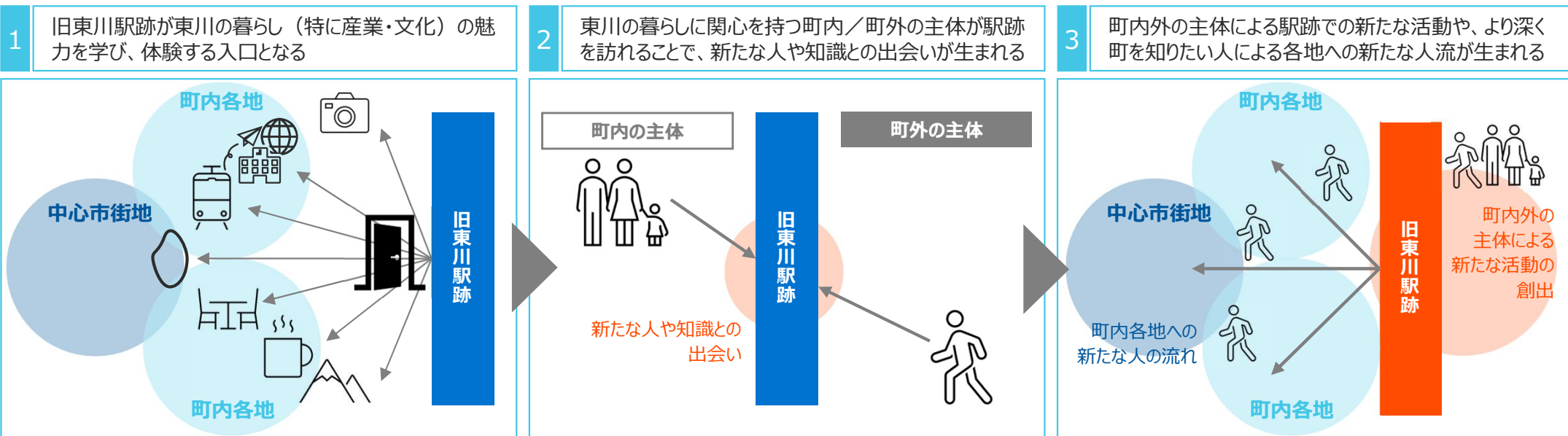
- 旧東川駅跡を、前ページで示した5つの要素を充足する「東川の歴史・文化・人の魅力に触れ、新たな地域価値を創発する場所」として利活用することにより、中心市街地をはじめ、まち全体に以下に示すような変化が生じることが期待される。

町全体に生じうる変化

旧東川駅跡の利活用の方向性：「東川の歴史・文化・人の魅力に触れ、新たな地域価値を創発する場所」として再活性化



旧東川駅跡を含む町全体に生じる変化



3-1.既存施設 | 旧東川駅跡の現況

建物等立地状況



建物群の概況

NO	施設名称	建築年	現況構造	階層	構造補強
①	18号倉庫	昭和36年	木造	1 階建て	建物内部鉄骨フレーム補強
②	車庫	昭和42年	木造	1 階建て	建物内部鉄骨フレーム補強
③	5号倉庫	昭和27年	レンガ造	1 階建て	建物内部鉄骨フレーム補強
④	7号倉庫	昭和31年	レンガ造	1 階建て	建物内部鉄骨フレーム補強
⑤	16号倉庫	昭和34年	ブロック造 + 鉄筋コンクリート造	1 階建て	建物内部鉄骨フレーム補強
⑥	14号倉庫	昭和33年	ブロック造 + 鉄筋コンクリート造	1 階建て	建物内部鉄骨フレーム補強
⑦	25号倉庫	昭和36年	石造 + 鉄筋コンクリート造	1 階建て	建物内部鉄骨フレーム補強
⑧	38号倉庫	昭和52年	木造	1 階建て	解体
⑨	22号倉庫	昭和33年	レンガ造 + 鉄筋コンクリート造	1 階建て	建物内部鉄骨フレーム補強
⑩	31号倉庫	昭和44年	鉄骨造（一部SRC造）	1 階建て	解体

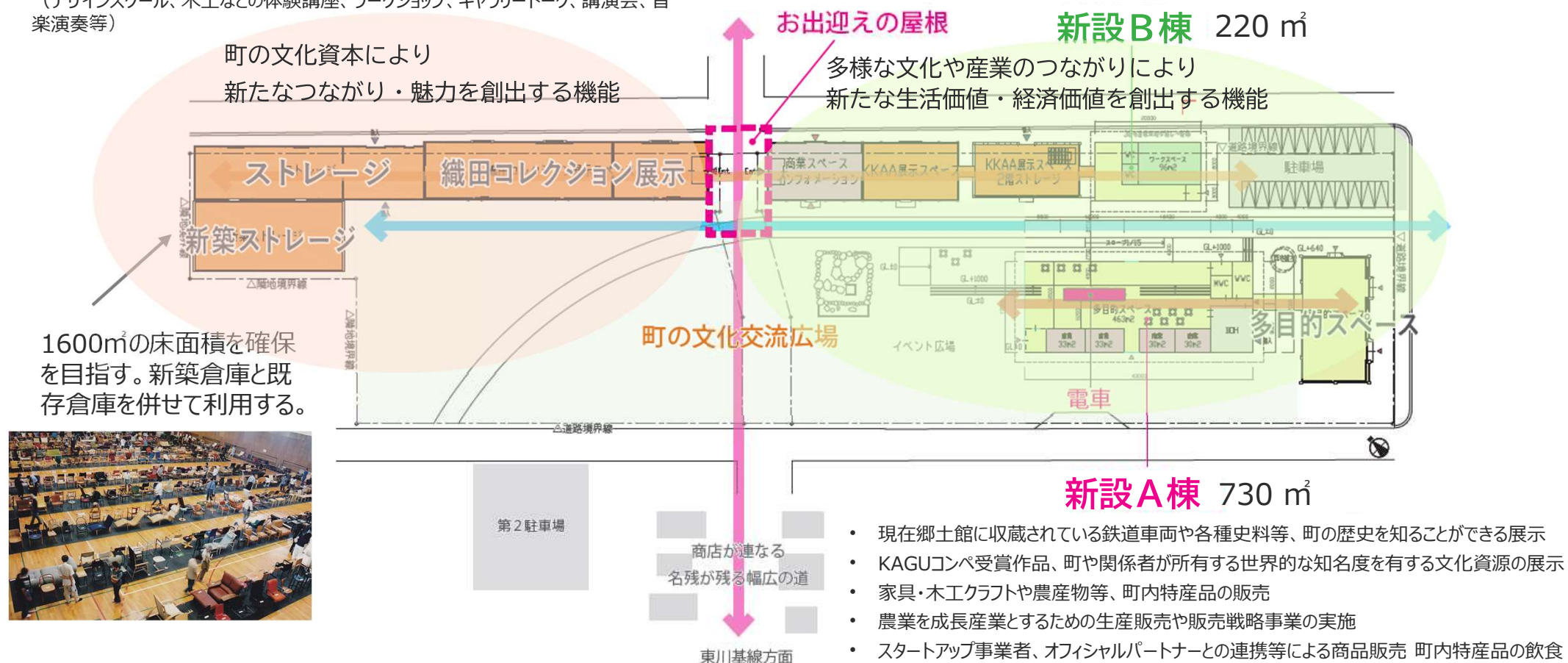
- 図の通り、旧東川駅跡には倉庫群、旧プラットフォーム、記念碑が現存している。
- 対象地内を道路が縦断しているほか、一部倉庫は道路境界線を越境している。

- 構造的劣化状況の調査および考えられる補強方法の検討を行った。
- 構造調査の結果、38号倉庫および31号倉庫は特に劣化が著しかったことから、撤去を検討する。近接する倉庫の境界については、一体化ないしエキスパンションジョイントを設けることが考えられる。各倉庫については、それぞれ適切な構造補強を実施することが想定される。
- 以降の検討は、建物外観の維持を図りつつ、建物の構造補強等を実施することを仮定したうえで整理したものであるが、今後費用やリスクを踏まえて引き続き検討する。

3-2. 既存施設 | 平面イメージ

現段階の調査により明らかになった事項に基づく、整備イメージの一例を示したものである。

- ・ 町内外の協定教育機関、団体等との連携による新しい学びの場づくり
- ・ 「働く」と「暮らす」の魅力の発信と地域ブランディングによる若者等の移住とUターンの促進
- ・ 株主制度やオフィシャルパートナー制度を通じて、企業との共創事業による、既存産業の価値向上と新規事業の開発
- ・ 織田コレクション等、まちが所有する文化財の展示
- ・ その他町民の創造性を刺激するような各種企画展示
- ・ 織田コレクション等を活用し、多様なニーズに応えた、様々な学びの場の創出及び人材育成
(デザインスクール、木工などの体験講座、ワークショップ、ギャラリートーク、講演会、音楽演奏等)



3-3. 既存施設 | イメージパース



3-4. 概算事業費（参考値）

以下の考え方によりイメージを整理した。あくまで現段階の情報や仮定に基づくケーススタディであるため、今後詳細検討する中で費用感は変化する。

諸元 既存建物を活用する場合の整備費単価は、別途実施した建物調査の中間報告結果に基づく

◆整備費（新設）単価 現況新築をした場合の㎡単価を780,000円（ストレージについては660,000円）とする

◆運営費単価 せんとぴゅあⅡをベースに運営費、事業費 $m = 28,000$ 円とする

◆整備費（既存）単価 既存倉庫の構造補強、建築工事費（電気設備工事費、機械設備工事費、屋根改修を含む。展示ケース等の購入費は含まない。）の㎡単価を1,604,000円とする。

◆外構整備費単価 m 単価は駐車場整備にかかる m 単価を使用 $m = 18,000$ 円 ※お出迎いの屋根、プラットフォームの改修費は見込んでいない。

試算結果

◆新設 整備費 1,533,000千円

A棟 $730m^2 \times 780,000円 = 569,400$ 千円

B棟 $220m^2 \times 780,000円 = 171,600$ 千円

ストレージ $1,200m^2 \times 660,000円 = 792,000$ 千円

◆既存倉庫改築 整備費 3,062,038千円

5号倉庫 $387.40m^2 \times 1,604,000円 = 621,390$ 千円

7号倉庫 $195.66m^2 \times 1,604,000円 = 313,839$ 千円

18号・車庫 $428.44m^2 \times 1,604,000円 = 687,218$ 千円

25号倉庫 $199.99m^2 \times 1,604,000円 = 320,784$ 千円

22号倉庫 $300.82m^2 \times 1,604,000円 = 482,516$ 千円

14号・16号倉庫 $396.69m^2 \times 1,604,000円 = 636,291$ 千円

◆外構 整備費 151,467千円

$(12,473.84m^2 - 4,059m^2) \times 18,000円 = 151,467$ 千円

◆設計費 整備費 140,000千円 ※基本設計、実施設計費

◆既存倉庫除却 事業費 74,228千円

38号倉庫 $169.36m^2 \times 110,000円 = 18,630$ 千円

31号倉庫 $505.44m^2 \times 110,000円 = 55,598$ 千円

○事業費 整備費試算額(税込) 4,886,505千円①

新設、既存倉庫改築、外構、設計費の合計)

既存倉庫除却費(税込) 74,228千円②

年間運営費 113,652千円 $(4,059m^2 \times 28千円)$ ※収入見込まず

合計 4,960,733千円

既存倉庫の改修費
建物を新築で整備した場合の事業費
 $1,909m^2 \times 780千円 = 1,489,020$ 千円
を目標値とする

事業費目標値
3,500,000千円

3-5. 今後の進め方

- 令和6年度は基礎調査および既存施設の構造調査を実施した。
- 令和7年度は、本調査の結果を出発点として、より広く意見を聴取しながら基本構想を策定することが考えられる。

各年度の実施事項（案）

令和6年度

- 旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定のための基礎調査を実施
- 東川町 文化関係人口発信・活用拠点調査構造改修に関する検討を実施



本調査報告書の作成



スケジュール（例）※

令和7年度

- | | |
|------|-------------------|
| 4月 | 関係者への展開（議会など） |
| 6月 | 関係者懇談会開始 |
| 1～2月 | 関係者懇談会終了 |
| 3月 | 旧東川駅跡地再開発事業基本構想策定 |

※あくまで現段階の仮定であり、状況により変更の可能性がある。

※関係者懇談会のイメージ

目的：町内関係者および外部有識者を交えて本プロジェクトに関する意向を聴取・整理し、基本構想へ反映する。

